



“よねやま”から広がる新しい世界 ⑬

米山には出会いと楽しみが待っている



新潟中央RC
(第2560地区 新潟県)

カウンセラー
箕輪 光泰さん

寄付の楽しみ、米山の魅力

私は米山記念奨学事業に、特段崇高な理想を持っているわけではないし、奨学生と関わったことで自分の中に革命的な変化が起きたこともありません。でも、いろいろな国の人間と付き合うことは、単純に面白い。日本人ではなく外国人を支援することに、この事業の面白さがあると思っています。金持ちの国から来た留学生を支援している、といった声も聞きますが、完璧な制度などこの世にありません。少なくとも私が関わってきたのは、つましい生活で自炊しながら勉学に励む学生ばかりです。

私のクラブでは、寄付する人としらない人とで不公平が生じないように、私がクラブ米山奨学委員長になった時に理事会に諮って、ロータリー財団にも米山記念奨学会にも会員全員から寄付を集めるようにしました。私も毎月寄付をしますが、その理由は、例会で発表されれば、その都度思い出して寄付をする仲間が増えるからです。

寄付は会員として当然の義務だと思っています。米山への寄付は、確定申告をすれば所得税が控除されるのも魅力ですね。お金には稼ごう楽しみ、ためる楽しみ、使う楽しみ、そして寄付をする楽しみがあるのです。なぜ寄付が楽しいのかというと、形が見えるからです。われわれの寄付で留学生が支援できる。だから私は米山だけでなく、もちろん財団にも、それ以外の民間団体にも、寄付が形となって見えるところに支援をしています。

米山記念奨学事業を知らない会員はまだたくさんいます。私が地区米山奨学委員、そして委員長を拝命した時には、県内各クラブの例会にお邪魔をして、米山に

ついて卓話をさせてもらいました。おかげでロータリアンとしての輪も広がりました。これも米山記念奨学事業の醍醐味の一つだと感謝しています。

彼の胸にバッジを着けるその日まで

さて、私たちのクラブにやってきた7人目の米山奨学生は、アルバニア出身の留学生ブレンディ・バロリでした。アルバニアって、どこだ？ 大抵の日本人がそう思うように、私もまずはそう思いました。

会ってみると、映画俳優のようないい男。出会ったその日に招待を受け、彼の家へと出掛けました。のちに米山奨学生となる奥さんのアルバナ、まだ幼かった長男を紹介してもらい、この日から家族ぐるみの付き合いがスタートしました。初めてのアルバニア料理に、初めての70度の酒。チェイサー（口直し）はコーヒーです。新潟は酒処どころですから酒の強さには自信があるようですが、あれには参りました。

ブレンディはアルバニアに関する本を夫婦で出版するなど、この地域に根付いて交流を深めています。4月からは新潟経営大学に勤務し、県内観光の魅力をも日本の若者たちに教え、新潟の観光資源を発掘しています。いずれ必ずロータリアンになると宣言してくれています。ブレンディの胸にロータリーの会員バッジを着ける日まで、私もまだまだ元気に頑張らねばなりません。



被災者支援のため、学友たちと水キョーザ作り

日本に留学し、勉学に励む外国人の出身地はさまざまです。日本人にはなじみの薄い国からの留学生とも、時には生涯にわたる友好関係を築けるのが、米山記念奨学事業の魅力の一つです。今回は「アルバニアって、どこだ？」という興味から始まった、カウンセラーの箕輪光泰さんと奨学生のブレンディ・バロリさんとの交流、また、ブレンディさんには、米山奨学生になったことで芽生えた新たな感情や決心について語っていただきました。



米山学友（新潟経営大学専任講師）

ブレンディ・バロリさん

出身：アルバニア

奨学期間：2005 - 07

学校名：新潟大学大学院

新たな気持ちの芽生え

アルバニアから来たというと、皆さん微妙な表情になりますね。認知度の低さは覚悟していましたが、アルメニアと間違えられた時には少しショックでした。

2000年に来日し、国費奨学生として山形大学修士課程を修了後、新潟大学大学院博士課程へ進学。私費留学の大変さは覚悟していましたが、家族を抱えての1年間は、二度と思い出したくありません。博士課程2年で米山奨学生となり、ようやく生活にも気持ちにも余裕が生まれました。奨学生として参加した佐渡島巡りやブドウ狩り。日本には良い文化があるなあと実感しました。そして、ボランティア活動に関わったことが、私の気持ちに変化をもたらしたのです。

私が新潟に来てから大きな地震が二度ありました。2004年の新潟県中越地震の後、学友会の仲間と仮設住宅に行き、足湯と水ギョーザを提供しました。私は

現役の奨学生でしたが、この体験を通じて、「自分の研究で社会の役に立ちたい」という思いに加え、「平和な世界と平等な社会のために頑張りたい」という気持ちが芽生えました。その後、東日本大震災の時には、山形大学時代の仲間と何度も被災地を往復しました。

人との交流を大切に

米山記念奨学金は、人との交流が大きな魅力です。奨学期間後も続く人間関係を手に入れることができます。将来、私は必ずロータリーに入会しますし、入会するなら新潟中央ロータリークラブと決めています。恩返しの気持ちもありますが、クラブの雰囲気が好きだし、自分も米山奨学生の面倒を見たいと思います。

現在は新潟経営大学観光経営学部で、観光について教えています。“灯台下暗し”で、地元の人が気付かなくても、外国人から見れば驚くような観光資源が新潟にはあるのです。今後も大好きな新潟で、若者を育てつつ、母国と日本との距離を近づけられるよう、努力していきます。

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業、または“よねやまだより”についてのご意見を、当奨学会まで、ぜひお寄せください。

Tel. 03-3434-8681 Fax. 03-3578-8281

Eメール：mail@rotary-yoneyama.or.jp



韓国米山学友によるロータリー衛星クラブが誕生

韓国に、創立会員31人全員が米山学友というロータリー衛星クラブが誕生。その名も、第3650地区・セソウルロータリークラブ(RC)のもとに創立された「韓国米山セソウル・ロータリー衛星クラブ」。3月26日、ソウル市で開かれた創立総会では、創立会長の林基元氏(1989-91/佐野RC)が「会員は皆、ロータリー精神を引き継ぐ人たちです。今後は会員を増やし、発展に努めたい」と意欲を見せ、新クラブの顧問で韓国学友会会長の全炳台氏(1980-83/仙台北RC)は、「学友会と合同の奉仕活動やシンポジウムなど、協力して新しい活動を計画していきたい」と語りました。



総会に集まった衛星クラブの創立会員たち